

適用範囲		モデル名		PH20-11	PH20-11A	PH10-50, 50A	PH30-11
		主仕様	吸吐弁型式	—	スキューズ	スキューズ	スキューズ
			最大吐出量	m ³ /h	20	20	30
			最大吐出圧力	MPa	1.2	1.2	1.8
			7-φ最大地上高	m	11	11	11
		適用号機		87P00001～91P*****	97P00001～98P*****	84P000001～90P*****	90P000001～97P*****
区分	検査箇所	検査項目(条件)	単位	検査基準値			
圧送装置	ポンプ本体	ピストンストローク回数	回/min	—	—	—	—
		ロータ回転数	回/min	25±1	25±1	30±1	30±1
		(油圧ポンプ回転数) (エンジン回転数) (作動油温度)	(min ⁻¹) (min ⁻¹) (℃)	(1500 ⁺⁰ ₋₅₀) いすゞ1780 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱1500 ⁺⁰ ₋₅₀ (50±10)	(1500 ⁺⁰ ₋₅₀) いすゞ1780 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱1500 ⁺⁰ ₋₅₀ (50±10)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) いすゞ2380 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱2000 ⁺⁰ ₋₅₀ (50±10)	(1750 ⁺⁰ ₋₅₀) いすゞ2080 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱1500 ⁺⁰ ₋₅₀ (50±10)
	かくはん装置	回転速度 チェーンのたわみ	min ⁻¹ mm	18±3 20・チェーン中央	18±3 20・チェーン中央	26±3 20・チェーン中央	22±3 20・チェーン中央
		(油圧ポンプ回転数) (エンジン回転数) (作動油温度)	(min ⁻¹) (min ⁻¹) (℃)	(1500 ⁺⁰ ₋₅₀) いすゞ1780 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱1500 ⁺⁰ ₋₅₀ (50±10)	(1500 ⁺⁰ ₋₅₀) いすゞ1780 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱1500 ⁺⁰ ₋₅₀ (50±10)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) いすゞ2380 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱2000 ⁺⁰ ₋₅₀ (50±10)	(1750 ⁺⁰ ₋₅₀) いすゞ2080 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱1500 ⁺⁰ ₋₅₀ (50±10)
		圧力設定値 (設定値到達時間)	MPa (min)	0.083 (10分以内)	0.083 (10分以内)	0.083 (10分以内)	0.083 (10分以内)
	真空ポンプ	圧力降下許容値 (保持時間)	MPa (min)	0.007 (60)	0.007 (60)	0.007 (60)	0.007 (60)
		Vベルトのたわみ	mm	20・φ8中央	20・φ8中央	15～20・φ8中央	15～20・φ8中央
	ブーム装置	シリンダ 自然降下量	ブーム (1) シリンダ ブーム (2) シリンダ ブーム (3) シリンダ ブーム (4) シリンダ ブーム (5) シリンダ	mm mm mm mm mm	0.5 以下 0.5 以下 — 0.5 以下 —	0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 —	0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 —
			(測定時間) (作動計測条件) (作業装置姿勢)	(min) (—) [図面No.]	(10) (—) [図 No. 1]	(10) (—) [図 No. 1]	(10) (—) [図 No. 1]
		ブームシリンダ 作動時間	ブーム (1) 伸び 縮み	sec sec	35±10 35±10	35±10 35±10	35±10 35±10
			ブーム (2) 伸び 縮み	sec sec	55±10 70±10	40±10 35±10	40±10 35±10
			ブーム (3) 伸び 縮み	sec sec	— —	20±10 20±10	20±10 20±10
			ブーム (4) 伸び 縮み	sec sec	— —	— —	— —
		水ポンプ (配管洗浄用)	吐出圧力 油圧 水圧 飛距離	MPa MPa m	— 1.2	— 1.2	— 1.8
			吐出圧力	MPa	—	—	—
			(油圧ポンプ回転数) (エンジン回転数) (作動油温度)	(min ⁻¹) (min ⁻¹) (℃)	(—) (—) (—)	(—) (—) (—)	(—) (—) (—)

☆印：新車基準値を表す（参考値）。

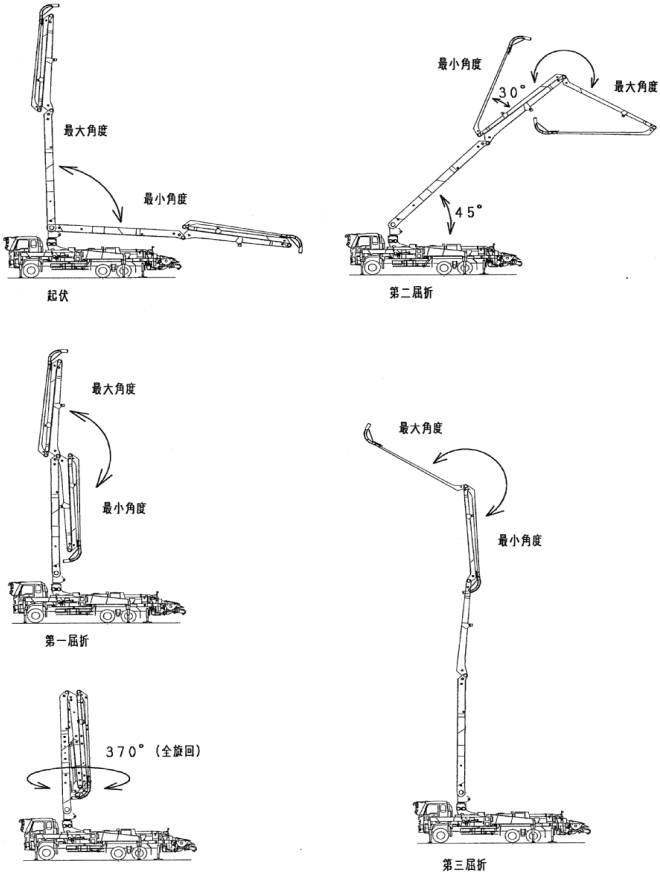
PQ10-10	PH35 (AB) -11	PH40-14	PH45 (A) -14 (A)	PH40-16	PH50-14	PH50-16	PH50 (AB) -17
スキューズ	スキューズ	スキューズ	スキューズ	スキューズ	スキューズ	スキューズ	スキューズ
40	35	40	45(32) 特記5)	40	50	50(30)	50(36)
1.8	2.5	1.8	1.8(2.5)	1.8	2.0	1.5(2.5)	1.8(2.5)
＜7-φ無し＞	11	14	14	16	14	16	17
81P000001～95P*****	00P095005～	90P010001～93P*****	97P000001～	99P030001～96P*****	90P020001～93P*****	99P020001～99P*****	99P040001～
検査基準値							
— 40±1	— 26±1 特記5)	— 40±1	— 36±1	— 44±1	— 36±1	— 40±1	— 40±1
(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) いすゞ2380 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱2000 ⁺⁰ ₋₅₀ (50±10)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (ｼｬｼで異なる) (50±10)	(1750 ⁺⁰ ₋₅₀) (1700 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (ｼｬｼで異なる) (50±10)	(2050 ⁺⁰ ₋₅₀) (2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1990 ⁺⁰ ₋₅₀) (1940 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(2160 ⁺⁰ ₋₅₀) いすゞ2570 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱2160 ⁺⁰ ₋₅₀ (50±10)	(2160 ⁺⁰ ₋₅₀) (ｼｬｼで異なる) (50±10)
29±3 20・チェーン中央	30±3 20・チェーン中央	21±3 20・チェーン中央	28±3 20・チェーン中央	25±3 20・チェーン中央	25±3 20・チェーン中央	23±3 20・チェーン中央	30±3 20・チェーン中央
(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) いすゞ2380 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱2000 ⁺⁰ ₋₅₀ (50±10)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (ｼｬｼで異なる) (50±10)	(1750 ⁺⁰ ₋₅₀) (1700 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (ｼｬｼで異なる) (50±10)	(2050 ⁺⁰ ₋₅₀) (2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1990 ⁺⁰ ₋₅₀) (1940 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(2160 ⁺⁰ ₋₅₀) いすゞ2570 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱2160 ⁺⁰ ₋₅₀ (50±10)	(2160 ⁺⁰ ₋₅₀) (ｼｬｼで異なる) (50±10)
0.083 (10分以内)	0.083 (10分以内)	0.083 (10分以内)	0.083 (10分以内)	0.083 (10分以内)	0.083 (10分以内)	0.083 (10分以内)	0.083 (10分以内)
0.007 (60)	0.007 (60)	0.007 (60)	0.007 (60)	0.007 (60)	0.007 (60)	0.007 (60)	0.007 (60)
15～20・φ8中央	20・φ8中央 (電動モータ駆動)	15～20・φ8中央	＜電動モータ駆動＞	＜電動モータ駆動＞	15～20・φ8中央 (電動モータ駆動)	20・φ8中央 (電動モータ駆動)	（電動モータ駆動）
— — — —	0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 —	0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 —	0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 —	0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 —	0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 —	0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 —	0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 —
(—) (—) [—]	(10) (—) [図 No. 1]	(10) (—) [図 No. 1]	(10) (—) [図 No. 1]	(10) (—) [図 No. 1]	(10) (—) [図 No. 1]	(10) (—) [図 No. 1]	(10) (—) [図 No. 1]
— —	45±10 70±10	40±10 35±10	50±10 60±10	35±10 30±10	38±10 30±10	55±10 60±10	60±10 60±10
— —	40±10 55±10	35±10 35±10	40±10 55±10	40±10 35±10	40±10 40±10	45±10 65±10	45±10 65±10
— —	30±10 40±10	50±10 55±10	30±10 40±10	50±10 60±10	50±10 55±10	40±10 60±10	45±10 60±10
— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	20±5 30±5
— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
(—) (—) [—]	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10) [図 No. 3]	(1750 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10) [図 No. 3]	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10) [図 No. 3]	(2050 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10) [図 No. 3]	(1990 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10) [図 No. 3]	(2160 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10) [図 No. 3]	(2160 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10) [図 No. 3]
1.8 —	2.5 —	1.8 —	2.5 —	1.8 —	2.0 —	2.5 —	2.5 —
—	—	—	—	—	—	—	—
(—) (—) (—)	(—) (—) (—)	(—) (—) (—)	(—) (—) (—)	(—) (—) (—)	(—) (—) (—)	(—) (—) (—)	(—) (—) (—)

適用範囲		モデル名		PH20-11	PH20-11A	PH10-50, 50A	PH30-11	
		主仕様	吸吐弁型式	—	スクイーズ	スクイーズ	スクイーズ	スクイーズ
			最大吐出量	m ³ /h	20	20	30	30
			最大吐出圧力	MPa	1.2	1.2	1.8	1.8
		ブーム最大地上高	m	11	11	11	11	
		適 用 号 機		87P00001～91P*****	97P00001～98P*****	84P000001～90P*****	90P000001～97P*****	
区分	検査箇所	検査項目(条件)	単位	検査基準値				
油圧装置	☆油圧機器 セット圧	主油ポンプ油圧	MPa	13.7±1	13.7±1	20.6±1	17.4±1	
		弁シリンダ油圧	MPa	—	—	—	—	
		かくはんモータ油圧	MPa	7.4±1	7.4±1	8.8±1	7.4±1	
		ブーム油圧	MPa	17.2±1	20.6±1	20.6±1	20.6±1	
		ACC ガス封入圧力	MPa	—	—	—	—	
		(油圧ポンプ回転数)	(min ⁻¹)	(1500 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1500 ⁺⁰ ₋₅₀)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1750 ⁺⁰ ₋₅₀)	
		(エンジン回転数)	(min ⁻¹)	いすゞ1780 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱1500 ⁺⁰ ₋₅₀ (50±10)	いすゞ1780 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱1500 ⁺⁰ ₋₅₀ (50±10)	いすゞ2380 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱2000 ⁺⁰ ₋₅₀ (50±10)	いすゞ2080 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱1500 ⁺⁰ ₋₅₀ (50±10)	
車体・安全装置	☆旋回ベアリング 取付けボルトの 締付け	外輪取付ボルトの 締付トルク	N・m	167±9.8	167±9.8	167±9.8	167±9.8	
		内輪取付ボルトの 締付トルク	N・m	167±9.8	167±9.8	167±9.8	167±9.8	
		取付ボルトの交換基準	年	特記 4)	特記 4)	特記 4)	特記 4)	
	☆旋回作動速度	旋 回 速 度	sec	100±10	100±10	90±10	100±10	
		(旋回作動角度)	(度)	(360・全旋回)	(360・全旋回)	(360・全旋回)	(360・全旋回)	
		(油圧ポンプ回転数)	(min ⁻¹)	(1500 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1500 ⁺⁰ ₋₅₀)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1750 ⁺⁰ ₋₅₀)	
		(エンジン回転数)	(min ⁻¹)	いすゞ1780 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱1500 ⁺⁰ ₋₅₀ (50±10)	いすゞ1780 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱1500 ⁺⁰ ₋₅₀ (50±10)	いすゞ2380 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱2000 ⁺⁰ ₋₅₀ (50±10)	いすゞ2080 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱1500 ⁺⁰ ₋₅₀ (50±10)	
アウトリガ 自然伸縮量	シリンダ	mm	0.5以下	0.5以下	0.5以下	0.5以下		
	(測定時間) (作業装置姿勢)	min [図面No.]	(10) [図 No. 2]	(10) [図 No. 2]	(10) [図 No. 2]	(10) [図 No. 2]		
特記事項				1) ボンプ圧力の測定は特殊治具を必要とし危険が伴うのでオペレータに異常の有無を確認し異常が無ければ省略する。 2) 可変式油圧ポンプの場合は斜板を最大に切り換えた状態とする。 3) シリンダ耐圧テスト時は先端荷重は無しとする。 4) 締付トルクを下回る緩みが1本でもあればそのベアリング・外輪又は内輪のボルト全数交換。				

26

PQ10-10	PH35 (AB) -11	PH40-14	PH45 (A) -14 (A)	PH40-16	PH50-14	PH50-16	PH50 (AB) -17
スクイーズ	スクイーズ	スクイーズ	スクイーズ	スクイーズ	スクイーズ	スクイーズ	スクイーズ
40	35	40	45 (32) 特記5)	40	50	50 (30)	50 (36)
1.8	2.5	1.8	1.8 (2.5)	1.8	2.0	1.5 (2.5)	1.8 (2.5)
7-ム無し	11	14	14	16	14	16	17
81P000001～ 95P*****	00P095005～	90P010001～ 93P*****	97P000001～	99P030001～ 98P*****	90P020001～ 93P*****	99P020001～ 99P*****	99P040001～
検 査 基 準 値							
17.2±1	25.0±1	19.6±1	25.0±1	21.1±1	21.1±1	25.0±1	25.0±1
—	—	—	—	—	—	—	—
6.9±1	8.0±1	7.4±1	8.0±1	8.0±1	7.4±1	8.0±1	8.0±1
—	27.5±1 特記6)	20.6±1	27.1±1	27.1±1	20.6±1	27.1±1	27.5±1
—	—	—	—	—	—	—	—
(2000 °0-50) いすゞ2380 °0-50 三 菱 2000 °0-50 (50±10)	(2000 °0-50) (ジャシで異なる) (50±10)	(1750 °0-50) (1700 °0-50) (50±10)	(2000 °0-50) (ジャシで異なる) (50±10)	(2050 °0-50) (2000 °0-50) (50±10)	(1990 °0-50) (1940 °0-50) (50±10)	(2160 °0-50) いすゞ2570 °0-50 三 菱 2160 °0-50 (50±10)	(2160 °0-50) (ジャシで異なる) (50±10)
—	167±9.8	294±9.8	325.6±9.8	325.6±9.8	294±9.8	325.6±9.8	325.6±9.8
—	167±9.8	294±9.8	325.6±9.8	325.6±9.8	294±9.8	325.6±9.8	325.6±9.8
—	特記 4)	特記 4)	特記 4)	特記 4)	特記 4)	特記 4)	特記 4)
—	60±10	140±10	60±10	75±10	100±10	75±10	55±10
(—)	(360・全旋回)	(360・全旋回)	(360・全旋回)	(360・全旋回)	(360・全旋回)	(360・全旋回)	(360・全旋回)
(—)	(2000 °0-50)	(1750 °0-50)	(2000 °0-50)	(2050 °0-50)	(1990 °0-50)	(2160 °0-50)	(2160 °0-50)
(—)	(ジャシで異なる)	(1700 °0-50)	(ジャシで異なる)	(2000 °0-50)	(1940 °0-50)	いすゞ2570 °0-50 三 菱 2160 °0-50	(ジャシで異なる)
(—)	(50±10)	(50±10)	(50±10)	(50±10)	(50±10)	(50±10)	(50±10)
—	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下
(—)	(10)	(10)	(10)	(10)	(10)	(10)	(10)
[—]	[図 No.2]	[図 No.2]	[図 No.2]	[図 No.2]	[図 No.2]	[図 No.2]	[図 No.2]
1)ポンプ圧力の測定は特殊治具を必要とし危険が伴うので、ペーパに異常の有無を確認して異常が無ければ省略する。							
2)可変式油圧ポンプの場合は斜板を最大に切り換えた状態とする。							
3)シリンダ耐圧テスト時は先端荷重は無しとする。							
4)締付トルクを下回る緩みが1本でもあればそのペアリック輪(外輪 又は 内輪)のボルト全数交換。							
5)低圧時3速 (PQ10-10)	5)OP仕様 4速、高圧 時3速 (PQ10-10)	5)OP仕様 4速、高圧 時3速 (PQ10-10)	5)PH45-14は 45(35)				
	6)起伏縮のみ 10±1 MPa						

項目	測定方法	計測姿勢
ブームシリンダ 自然降下	アウトリガを最大に張り出し、 ブームをまっすぐに伸ばした 状態で保持する。各ブームシ リンダにダイヤルゲージを取 り付け、10分間の自然降下量 を計測する。 ブーム先端は先端ホースのみ とし、過重は加えない。	図-1 ブームシリンダ自然降下計測姿勢 (下図参照)
		
アウトリガシリンダ 自然降下	ブームを水平に伸ばし、測定 対象のアウトリガの真上に置 く。アウトリガにダイヤルゲ ージを取り付け、10分間の自 然降下量を計測する。	図-2 アウトリガシリンダ自然降下計測姿勢
		

項目	測定方法	計測姿勢
ブーム旋回 作動速度	アウトリガを最大に張り出し、 各ブームシリンダの全ストロ ークの作動時間をストップウ ォッチで計測する。	図-3 ブーム作動速度計測姿勢 (下図参照)
		

項目	測定方法	計測姿勢
ブームシリンダ 自然降下	アウトリガを最大に張り出し、ブームをまっすぐに伸ばした状態で保持する。各ブームシリンダにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。 ブーム先端は先端ホースのみとし、過重は加えない。	図-4 ブームシリンダ自然降下計測姿勢 (下図参照)
アウトリガシリンダ 自然降下	ブームを水平に伸ばし、測定対象のアウトリガの真上に置く。アウトリガにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。	図-5 アウトリガシリンダ自然降下計測姿勢 (下図参照)

項目	測定方法	計測姿勢
ブーム旋回 作動速度	アウトリガを最大に張り出し、各ブームシリンダの全ストロークの作動時間をストップウォッチで計測する。	図-6 ブーム作動速度計測姿勢 (下図参照)